

結語

本研究の目的は、地域医療圏における急性心筋梗塞症と脳卒中発症時に高度医療を時間の遅延なく効果的に提供できる救急医療システム構築である。

1. 発症から病院までの時間の遅れの解析から、啓発ツールを作成した。
2. 搬送距離と時間解析と予後を解析し、搬送長時間で予後不良な地域を明らかにし、搬送手段やIT活用の必要性を提言した。
3. IT活用によるモバイルテレメディシンによる治療短縮効果をモデル地区で実証し、地域の特性を活かした循環器救急医療の提言を可能とした。
4. 我が国がリードする低体温療法、補助循環、緊急カテーテル治療を組み合わせた治療結果を解析した。最重症例への治療の標準化を提言する予定である。

これらの成果に基づき、急性心筋梗塞症や脳卒中に対する根拠に基づく医療の普及・定着を図るとともに、地域循環器救急医療のシステム構築に当たり、効果的かつ効率的な循環器救命・治療対策の確立と国際的な標準化に資することが期待される。

急性心筋梗塞症と脳卒中に対する
超急性期診療体制の構築に関する研究 JPULSE2

搬送の遅れの要因と予後 —臨床疫学的な検討—

2010/2/23
国立循環器病センター

厚生労働科研H19-心筋-一般003

臨床疫学的な検討

急性心筋梗塞症と脳卒中発症時に
高度医療を時間の遅延なく効果的に提供できる
救急医療システム構築をめざして

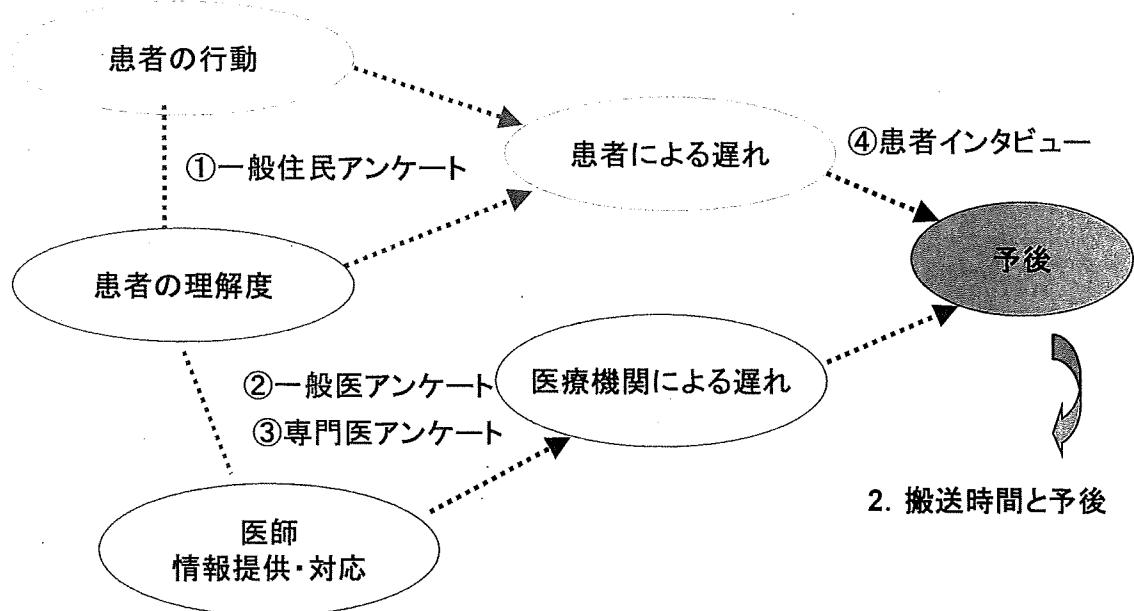
1. 搬送の遅れの要因の分析

- ①一般住民
 - ②一般医
 - ③専門医
 - ④患者
- ↓
- アンケート調査
- インタビュー調査

啓発ツール作成

2. 搬送時間と循環器系死亡割合との関係解析

1. 遅れの要因



3

①一般住民

- 2008年1月
集団: 全国の一般住民を対象として,
2段階ランダムサンプリング法を用いて抽出
訪問留置法による質問紙法での断面調査
- 解析対象者: 1200名
 - 年齢 46.3歳 (標準偏差 17.4)
 - 性別 50.3% [女性]

4

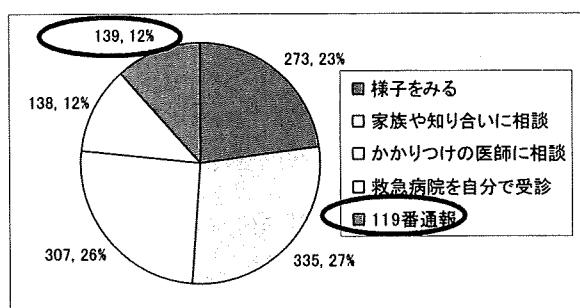
①一般住民

心筋梗塞の発作であると思う症状
(複数回答)



■ 胸の圧迫される痛み	79%
■ 息苦しさ	57%
■ みぞおちの痛み	18%
■ 背中の痛み	14%
■ 頭痛	11%
■ のどや下あごの痛み	3%
■ わからない,無回答	13%

上半身に未経験の強い不快感があったとき、あなたはどうしますか？(平日の日中)



症状の認識が十分ではない

119番通報すると回答:1割程度

5

②一般医

- ・ 断面研究
- ・ 対象集団:
全国の一般医を対象として、
地域と年齢を層とした2段階ランダムサンプリング
- 平成16年度地域・年齢別医師数を参照
(厚生労働省:医師・歯科医師・薬剤師調査より)
- ・ 手段:インターネットで配信、2008年1月
- ・ 参加者数:1002人

6

②一般医 急性心筋梗塞

ハイリスク患者へ
急性心筋梗塞に関する
情報提供や説明行っている
775/1002人(77%)

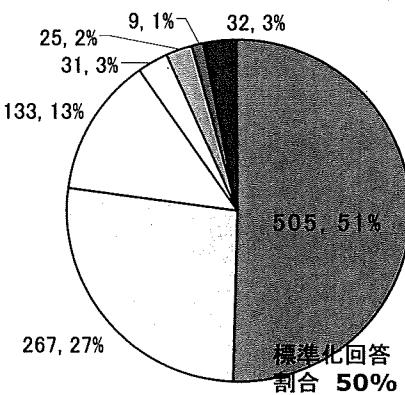
説明内容(775人中)

危険因子、生活習慣での注意	627	81%	
どのような病気か	572	74%	
発症時のサイン	394	51%	
対処方法	217	28%	

[□説明している] 0% 20% 40% 60% 80% 100%

ハイリスク例への指導が十分とはいえない

電話で急性心筋梗塞疑いの場合の対応（平日の日中）



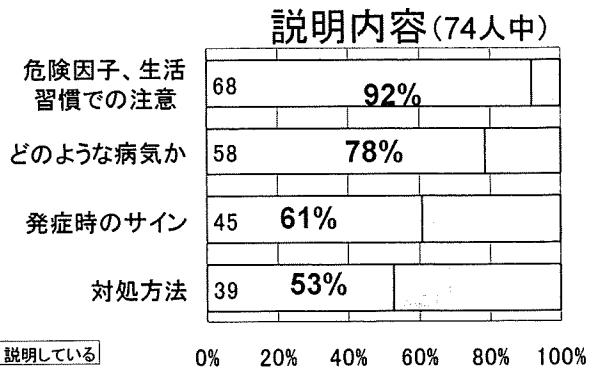
- すぐに119番通報を指示
- すぐにかかりつけ医への来院を指示
- すぐに救急医療機関に自分で受診するよう指示
- しばらく経過みて改善なければ119番通報を指示
- しばらく経過みて改善なければかかりつけ医への来院指示
- しばらく経過みて改善なければ救急医療機関に自分受診指示
- その他

③専門医

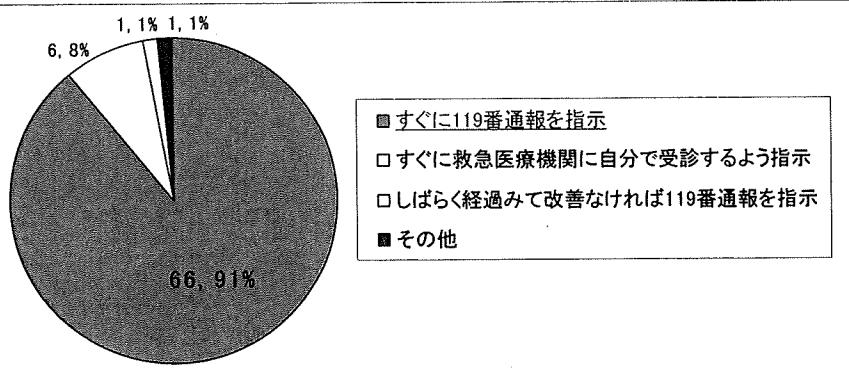
- 断面研究
- 対象集団:
本研究の関連施設へ質問票配布
-医師に対する質問
-施設に対する質問
- 2009年
- 施設数:14
- 回答医師数:75名

③専門医 急性心筋梗塞

ハイリスク患者へ
急性心筋梗塞に関する情報
提供や説明行っている
74/75人(99%)



電話で急性心筋梗塞疑いの場合の対応（平日の日中）



搬送までの時間 [中央値: 施設]

搬送時間	回数	割合
1-2時間	7	50%
2-4時間	5	36%
4-6時間	2	14%

9

④急性心筋梗塞患者の受診に至る過程 質的研究: インタビューから

救急車非利用

- ・いつでも見てくれる病院があるから救急車を呼ぶ必要はない
- ・近所に迷惑だから救急車は呼ばない
- ・救急車を呼ぶ前にとりあえず我慢しよう
- ・戦争の経験から人に助けは求めない

救急車利用

- ・救急車じゃないと対応してもらえないから
- ・夜間は救急車じゃないと見てもらえない
- ・いままで救急車を呼んだ経験があるので今回もよぼう

- ・老人の一人暮らしなので、ひとりでしめ覚悟はできているので助けをもとめない
- ・救急車を呼ぶのはカッコ悪い
- ・救急車を呼ぶとおおごとになる
- ・救急車を呼ぶよりもタクシーのほうが早い
- ・救急車を呼ぶことに批判もあるから呼ぶ気はない

- ・若い人は救急車を呼んだらあかんけれど老人は少々しんどければ呼んでもいい
- ・どうにも我慢できないから救急車を呼ぶ
- ・病院が呼べと言ったので救急車を呼んだ

10

啓発用パンフレット作成：指導に注目

どのようなときに心臓発作を疑いますか？



心臓発作の警告症状を覚えましょう

心臓発作の中には突然、しかも強烈な形で起こるものがあります。これは、喉頭で見るような心臓発作で、突然劇的に喘ぎ出し、胸を押さえて、はたと倒れるものです。この場合は誰もが心臓発作を疑わないでしょう。しかし、ほとんどの心臓発作は、軽い痛みや不快感から、ゆっくりと始まります。心臓発作が起こっているのに、なにがおかしいのか確信がもてず、助けを呼ぶのが遅れることがあります。

息切れ

これは胸部不快感を伴う場合と伴わない場合があります。



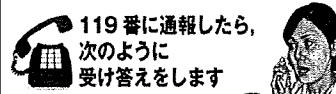
その他の症状

突然の冷や汗、吐き気、頭がフラフラする感じなどがあります。

すぐ行動すること

あなたや周りの人々が心臓発作や心停止、脳卒中なることを望んでいますが、起こってしまった場合でも、警告症状を知っておき、素早く行動することで、合併症を防いだり、減らしたり、あるいは命を救うことができるでしょう。

大切なのは、自分が周りの人に心臓発作や心停止、脳卒中が起こっていると思った場合には、待たないことです。ただちに119番通報して、病院に行ってください。



119番に通報したら、次のように受け答えをします

「火事ですか、救急ですか？」

「救急です」と答えてください。

上

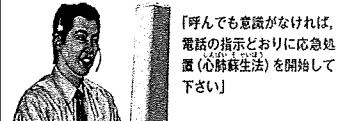
片

男

不

「住所、名前、電話番号、目印となる建物は○○○です」
(逆探知もしてくれるるので、電話を切らずに落ちていで答えましょう)

「どのような症状が伝えてください」
(意識はあるのか、麻痺はないか、頭の痛みはないか、上半身の不快感はないか)



「呼んでも意識がなければ、電話の指示どおりに応急処置(心肺蘇生法)を開始してください」

J-PULSE：急性心筋梗塞症と脳卒中の超急性期医療体制構築に関する研究班(厚生労働科学研究班)

2) 搬送時間と予後

- ・ 循環器系疾患の死亡率と搬送時間との関連を解析
- ・ 2005年 市区町村別死因別死亡率
 - 厚生労働省人口動態死亡調査
心疾患（高血圧以外）、脳血管障害
 - 人口統計：市区町村基礎データファイル
- ・ 循環器救急二次施設
 - 循環器の研修及び関連施設一覧、
全国病院情報データから抽出
 - 電子地図で計測
距離と搬送時間（市町村役所から病院まで）

まとめ

- ・発症から病院までの時間の遅れについて
 - 患者の認識、医師の説明が十分でないことが判明
→啓発ツールを作成した
 - 専門施設において搬送までの時間がかかる様子も認められた
- ・搬送時間と予後を解析し、
搬送長時間で予後不良な地域を明らかにした

遅延なく効果的に提供できる救急医療システム構築へつなげていきたい

J-PULSE・SAVE-J 合同報告会 2010/2/23

新しい循環器救急システム

脳卒中患者の発症-来院時間と転帰

国立循環器病センター
内科脳血管部門
豊田 一則

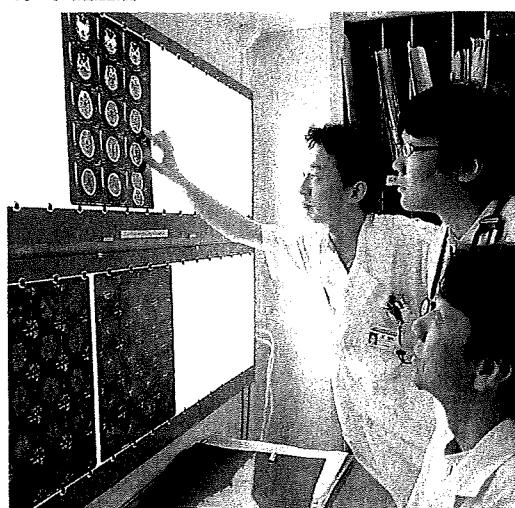


2006.9.26

浸透するIV-tPA治療

tPAを使えるか。医師らは短時間での判断を迫られ、脳の画像を見つめる=国立循環器病センター、吉吉謙吾撮影

発症3時間「tPA使えるか」



脳卒中

ルボ
集中治療室

一晩中チェック わずかな変化も見逃さない

患者を
生きる

②

132

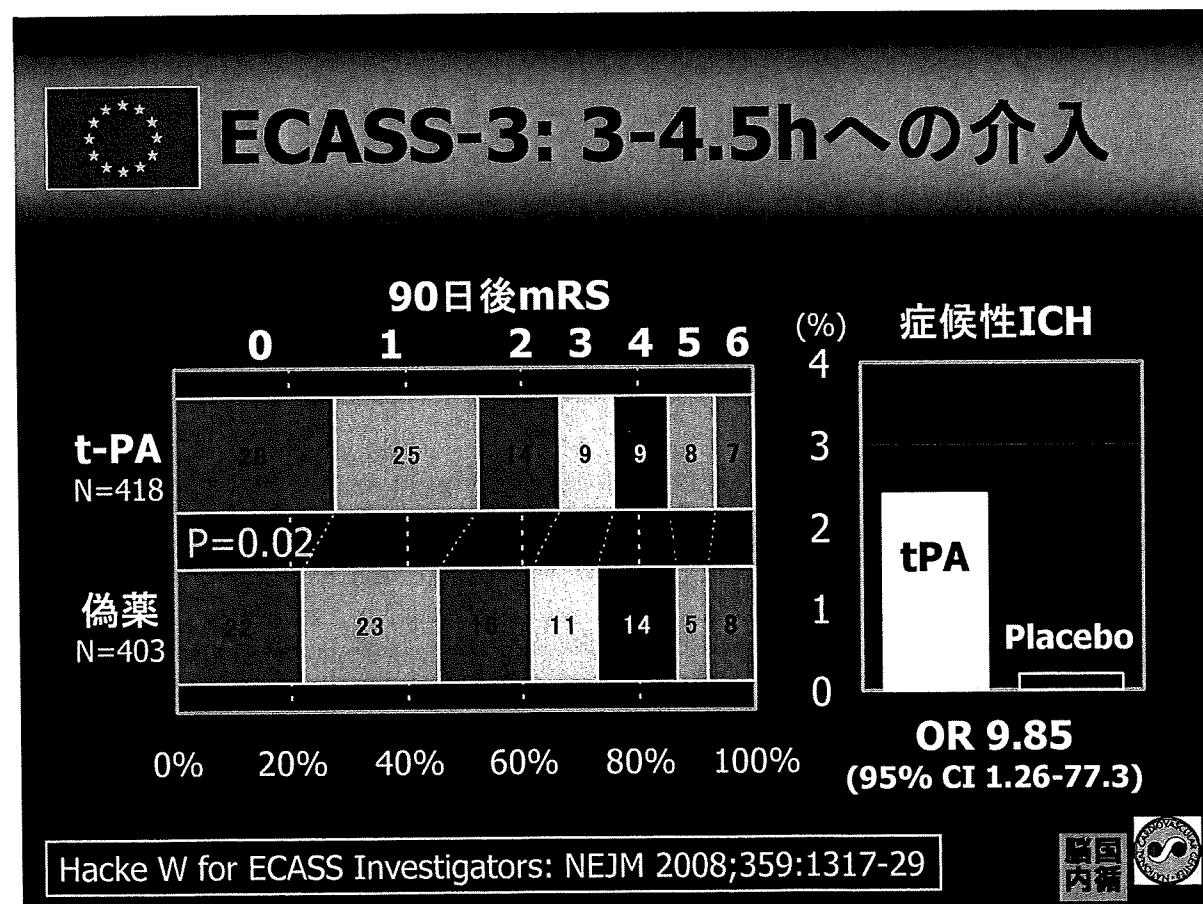
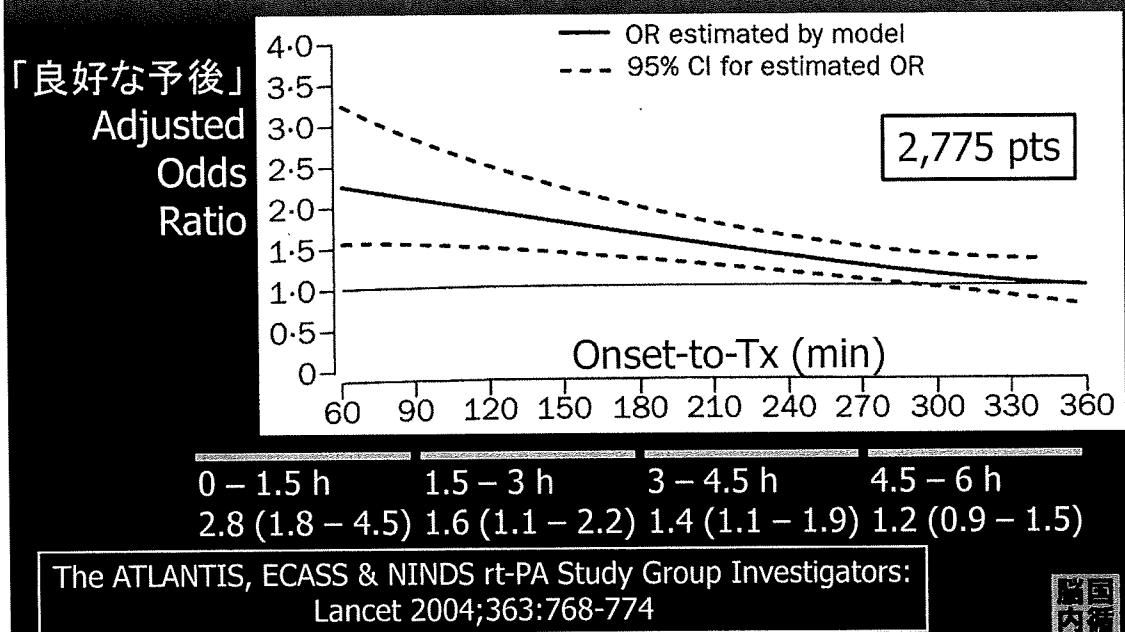
朝日新聞

2006年9月26日 朝日新聞社

毎日新聞社

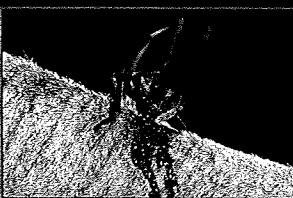
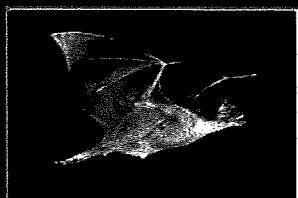
</div

IV-tPAの真のtime windowは? ATLANTIS, ECASS-1&2, NINDSのメタ解析



新世代tPAと治療有望患者の抽出

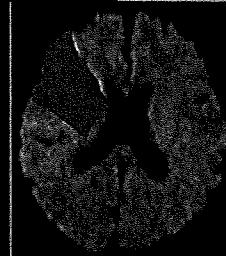
Desmoteplase



DWI mismatch PWI

拡散強調

PWI



tPA治療可能時間

3h

4.5h

9h

DIAS Hacke W, et al: Stroke 2005;36:66-73

DEDAS Furlan AJ, et al: Stroke 2006;37:1227-31

DIAS-2 Hacke W, et al: Lancet Neurol 2009;8:141-150



循委16A-1 岡山班「循環器病臨床評価指標の質的向上と効果的活用法の研究」より

Original Paper

Cerebrovascular
Diseases

Received: October 20, 2008
Accepted: February 9, 2009
Published online: May 6, 2009

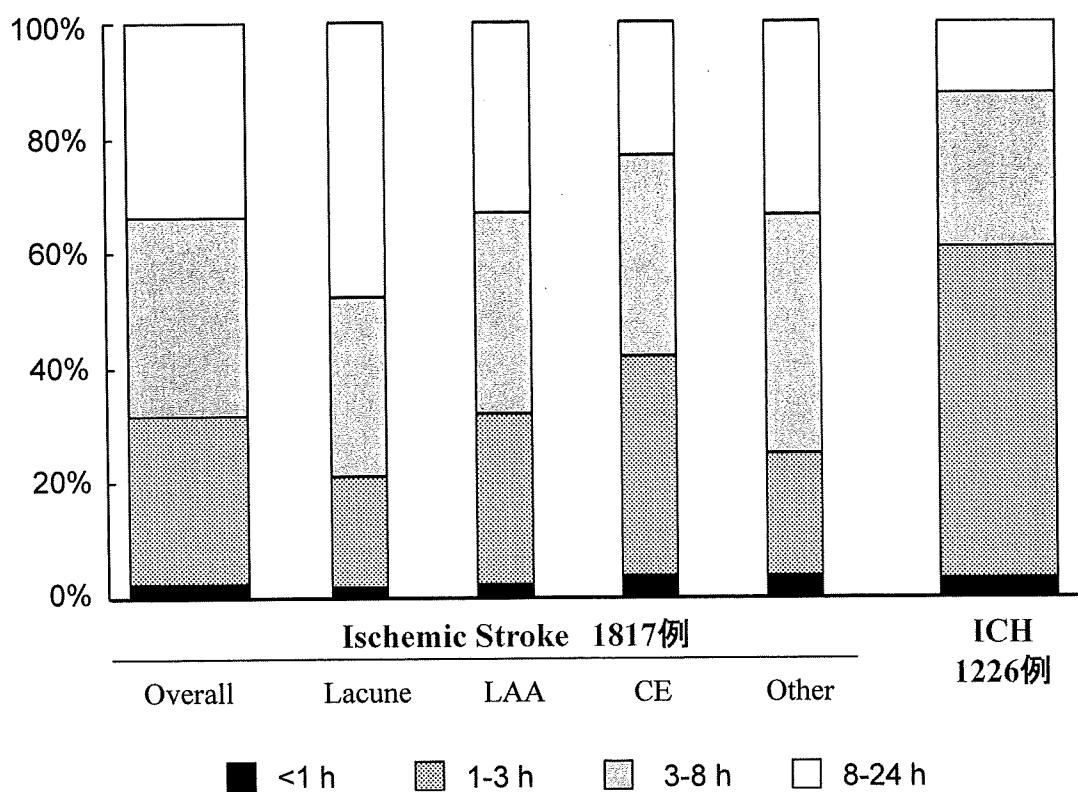
Early Hospital Arrival Improves Outcome at Discharge in Ischemic but Not Hemorrhagic Stroke: A Prospective Multicenter Study

Masaki Naganuma^a Kazunori Toyoda^a Hiroshi Nonogi^b Chiaki Yokota^a
Masatoshi Koga^a Hiroyuki Yokoyama^b Akira Okayama^c Hiroaki Naritomi^a
Kazuo Minematsu^a

^aCerebrovascular Division and ^bDivision of Cardiology, Department of Medicine, and

^cDepartment of Preventive Medicine, National Cardiovascular Center, Suita, Japan





脳梗塞1817例の臨床像

	<3 h 574 cases	3 - 8 h 632 cases	≥8 h 611 cases	p value
Age	72.1 ± 11.0	73.2 ± 12.0	72.6 ± 11.6	0.242
Male sex	338 (58.9)	385 (60.9)	369 (60.4)	0.759
Initial NIHSS score	9 (4 - 17)	5 (2.25 - 11)	4 (2 - 7)	<0.001
mRS score at discharge	3 (1 - 5)	2 (1 - 4)	2 (1 - 4)	<0.001
In-hospital death	61 (10.6)	38 (6.0)	31 (5.1)	<0.001

脳出血1226例の臨床像

	<1.2 h 473 cases	1.2 - 3.5 h 424 cases	≥3.5 h 329 cases	p value
Age	63.8 ± 14.1	67.7 ± 14.2	67.8 ± 13.9	<0.001
Male sex	252 (53.3)	219 (51.7)	166 (50.5)	0.725
Initial NIHSS score	8 (4 - 21)	8 (4 - 19)	6 (3 - 15)	0.001
mRS score at discharge	4 (2 - 6)	4 (2 - 5)	3 (1 - 5)	<0.001
In-hospital death	139 (29.5)	104 (24.8)	52 (16.0)	<0.001



発症-来院時間とoutcomes

	O-A time	mRS ≤2 at discharge			mRS ≤1 at discharge			In-hospital death		
		OR	95% CI	p value	OR	95% CI	p value	OR	95% CI	p value
Ischemic stroke	<3 h	1.73	1.24 - 2.42	0.001	1.66	1.21 - 2.28	0.002	0.90	0.53 - 1.52	0.685
	3 - 8 h	0.98	0.73 - 1.32	0.916	1.15	0.87 - 1.53	0.325	0.83	0.48 - 1.44	0.503
	≥8 h	1.00	(reference)	-	1.00	(reference)	-	1.00	(reference)	-
ICH	<1.2 h	0.43	0.30 - 0.63	<0.001	0.46	0.30 - 0.68	<0.001	2.41	1.62 - 3.64	<0.001
	1.2 - 3.5 h	0.59	0.40 - 0.86	0.006	0.50	0.33 - 0.75	<0.001	1.59	1.05 - 2.43	0.030
	≥3.5 h	1.00	(reference)	-	1.00	(reference)	-	1.00	(reference)	-



発症-来院時間と退院時mRS 0-2

	Onset-to-arrival time	Number of patients	OR	95% CI	p value
Large-artery atherosclerosis	<3 h	189	2.07	1.21 - 3.62	0.009
	3 - 8 h	210	0.81	0.497 - 1.311	0.389
	≥8 h	196	1.00	(reference)	-
Cardioembolism	<3 h	248	1.87	1.01 - 3.49	0.047
	3 - 8 h	206	1.17	0.65 - 2.15	0.599
	≥8 h	138	1.00	(reference)	-
Lacune	<3 h	94	1.27	0.62 - 2.75	0.524
	3 - 8 h	143	1.03	0.56 - 1.91	0.932
	≥8 h	218	1.00	(reference)	-
Other	<3 h	43	1.20	0.37 - 4.03	0.767
	3 - 8 h	73	2.03	0.41 - 2.58	0.952
	≥8 h	59	1.00	(reference)	-



循委19A-2 (横山班) 登録票

脳梗塞・脳出血発症・臨床情報登録票 ver.090218	
登録医療機関	担当医
登録日	200 年 月 日 登録番号 (自施設管理番号)
施設内患者ID	(フリガナ) 性別
生年月日	年 月 日 患者氏名
今回の 屋外搬送	<input type="checkbox"/> 脳梗塞 (<input checked="" type="checkbox"/> アテローム血栓性 <input type="checkbox"/> 心原性塞栓 <input type="checkbox"/> ラクナ <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 脳出血 * 個別性記入は他の欄に記入を CHECK
発症日時	200 年 月 日 発症時間確定 時 分 (15分刻み) 入院日時 200 年 月 日 入院時間確定 時 分
発症・入院時間確定の場合	<input type="checkbox"/> 00~6 時間 07~12 時間 013~24 時間 025~48 時間 049~72 時間 <input type="checkbox"/> 073~96 時間 097~120 時間 0121~144 時間 0145~168 時間
入院経路	<input type="checkbox"/> 來院 <input type="checkbox"/> 救急搬送 <input type="checkbox"/> 他施設からの紹介 <input type="checkbox"/> 施設内発症 <input type="checkbox"/> 不明
患長・体積	(入院時に最も大きいもの) 患長 cm <input type="checkbox"/> 体積 kg (□指定の場合 CHECK)
入院時mRSスコア	点 口未測定
入院時脳血管狭窄スコア (NIHSS Scale)	点 口未測定
脳卒中作因歴	<input type="checkbox"/> 初回 <input type="checkbox"/> 再発 <input type="checkbox"/> 不明 癖癪発症月 年 月 口(不明の場合 CHECK)
入院時の脳梗塞・脳出血の部位	<input type="checkbox"/> 右 <input type="checkbox"/> 左 <input type="checkbox"/> 両側 大きさ: 滞留量 (□15mm未満) □15mm以上 1/2葉未満 (□) □1/2葉以上 (大) 口不明
出血の主病巣 (詳細な部位については複数回答可)	滯留出血 (□2cm未満) □2~6cm (□) □6cm以上 (大) 口不明 ロント上穿刺法 ロント上皮質法 ロント下 ロント上下 口責任病変なし
画像診断・検査	<input type="checkbox"/> MRI <input type="checkbox"/> OMRA <input type="checkbox"/> OCT 口超音波透影 口頭動脈造影及検査 口CT 下水のみ検査 (発症後 24 時間以内) 口撮影・検査未実施
入院中の治療	<input type="checkbox"/> 血栓溶解薬 <input type="checkbox"/> 抗凝葉 <input type="checkbox"/> オザザリル Na <input type="checkbox"/> ロカルガトロバ <input type="checkbox"/> ロエダラボン <input type="checkbox"/> rt-PA 静注(発症後 3 時間) 口ヘリヤン 口局所血栓溶解療法
脳出血の外科治療の有無	□有 (姓名:) 口無
入院中の脳卒中再発	□有 口無 口クリニカルバスの使用 口有 口無
リハビリテーション	□有 口無 口不明 開始日: 年 月 日 (入院 日目)
危険因子	□高血圧 □高脂血症 □糖尿病 $\geq A1c\%$ □心房細動 □脳血管障害 □未破裂動脈瘤 □虚血性心筋梗塞 □その他の脳卒中の原因となる疾患 (弁膜症、腎不全など) ()
既往歴	□既往歴有 有の場合は□既往疾患名 □既往疾患期間 □既往歴既往 口不明 現在既往疾患のやめた時期 (□1 年以内) □1 年以上前 既往本数 (□20 本未満) □21~40 本 □41 本以上) 既往年数: 年
既往歴	□既往歴有 有の場合は□既往既往有 □既往既往無 □既往既往有 □既往既往無 口不明
退院日	200 年 月 日 退院 口自宅 (老人施設を含む) 口転院 (病院に帰る) 口死亡
退院時処方	□抗血小板薬 □抗凝葉 <input type="checkbox"/> 口替葉 <input type="checkbox"/> 口スタチン剤 ロイインスリン治療もしくは糖尿病治療薬
退院時mRSスコア	点 口未測定



rt-PA認可後の脳卒中患者の発症ー来院時間の短縮と転帰への影響: 循委16A-1・19A-2比較研究

宮下史生、萩原隆朗、他

【目的】脳卒中患者の発症ー来院時間の近年における変化と退院時転帰との関連の解明

【対象】2005年1月から2007年3月まで(A期間, 27施設, 2657例)と2008年1月から12月まで(B期間, 28施設, 1703例)に登録された、発症≤24hの脳梗塞・脳出血患者

【方法】発症ー来院時間により≤3h, 3-4.5h, >4.5hの3群に分け、それぞれの入院時 NIHSS, 退院時mRSをA,B期間で比較

【結果】

- ✓ A期間と比較して、B期間は発症ー来院時間が短く(中央値180分 vs 150分, $P <0.001$), 3時間以内来院例が多い(51.1% vs 57.6%, $P <0.001$)
- ✓ 入院時NIHSSは、3つの発症ー来院時間帯のいずれも、A,B期間で差がない
- ✓ ≤3h脳梗塞患者では、B期間の退院時mRS値がより低く[中央値2 vs 2, $P =0.002$], 年齢・性別・NIHSSで補正後もB期間でmRS ≤1が多い(OR 1.37, 95%CI 1.01-1.87)
- ✓ 3-4.5hおよび>4.5h脳梗塞患者の退院時mRSは、A,B期間での差を認めず
- ✓ 脳出血患者は3群のいずれも、退院時mRSにA,B期間での差を認めず

【結論】脳卒中患者の発症ー来院時間は近年短縮し、かつ3時間以内に来院した脳梗塞の退院時転帰は改善していることが示唆された。



多施設脳梗塞登録症例におけるrt-PA静注療法と退院時転帰との関連：循環委員会19A-2班登録研究

萩原隆朗、宮下史生、他

【目的】発症≤3hに来院した脳梗塞患者へのIV rt-PAの有無と退院時転帰の関連を解明

【対象】2008年1月から12月までに国内28施設に発症≤3hに来院した脳梗塞546例

【方法】転帰良好：退院時mRS ≤1、転帰不良：退院時mRS 4-6、IV rt-PAの有無と転帰との関連を、年齢・性・入院時NIHSSで補正したロジスティック回帰分析によって求めた

【結果】

- ✓ rt-PA使用群148例(27.1%、男87例、72.7±10.9歳)は非使用群398例(男244例、78.3±10.8歳)に比べて入院時NIHSS(中央値15 vs 5、P<0.001)、退院時mRS(中央値3 vs 2、P=0.006)がより高く、転帰良好(29.1% vs 41.0%、P=0.013)が少なく、転帰不良(48.0% vs 36.7%、P=0.018)が多い
- ✓ 多変量解析で、rt-PA群は非使用群に比べて転帰良好が多く(OR 2.02、95%CI 1.16-3.58)、転帰不良が少ない(OR 0.51、95%CI 0.30-0.85)

【結論】発症後3時間以内に来院した脳梗塞患者に対するrt-PA静注療法は、退院時転帰を好転させていた



脳卒中週間 '09 5/25→31

Stroke Is an Emergency

American Heart Association

If you have stroke warning signs, get medical attention FAST! Call 911 or your local emergency medical system. If you suspect a stroke, call the AHA's Stroke Connection at 1-888-555-6321.

脳卒中週間
2006
5月
25
木
31
水

1分がわかる運命 脳卒中

片方の手足・顔半分の麻痺・しびれが足る
(手足のみ、頭のみの場合もあります)
ロレツが弱らない、言葉が出てない、
他人の言うとおり理解できない
力はあるのに、立てない、歩けない、フラフラする
片方の目が見えない、物が二つに見える、
視野の半分を欠ける
経験したことのない激しい頭痛がする

脳卒中は命を落とす危険な病気です。
もしも自分や身の周りの人たちにこの症状があるなら、
できるだけ早く医療機関に連絡してください。

JSA

ストップ！NO卒中
血圧、LDLコレステロール、血糖を測定しよう

日本脳卒中協会

院外心停止例の救命率向上に 寄与する要因の検討

研究1 心肺蘇生法講習会受講の効果の検討

研究2 心停止発生前活動量、気温と心停止発生との関係

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻

予防医療学分野

分担研究者 川村 孝、石見 拓

研究協力者 西山 知佳、谷川 佳世

1

【研究1】

CPR training encourage general
public to perform CPR

心肺蘇生法講習会受講の効果の検討

2

背景・目的

- 救命講習(普通救命講習会、上級救命講習会) (全国・平成18年度)
7万6662回開催・146万7234名が受講
(総務省消防庁救急救助課・平成19年版 救急・救助の現状)
- 心肺蘇生法講習会の効果を明らかにした研究はほとんどない。
- 救助活動を行った者の心肺蘇生講習会受講経験の有無が、Bystander CPRの実施や転帰に影響するか否かを明らかにする。

3

ウツタイン大阪プロジェクト

AHA Medical/Scientific Statement
Special Report

Recommended Guidelines for Uniform Reporting of Data From Out-of-Hospital Cardiac Arrest: The Utstein Style

A Statement for Health Professionals From a Task Force of the American Heart Association, the European Resuscitation Council, the Heart and Stroke Foundation of Canada, and the Australian Resuscitation Council

Richard O. Cummins and Douglas A. Chamberlain, Cochairmen,
Norman S. Abramson, Mervyn Allou, Peter J. Barker, Lance Becker, Leo Bouillon,
Hercules H. Deback, Wolfgang F. Dick, Mickey S. Eisenberg, Thomas R. Evans,
Sig Holteberg, Richard Kerber, Arne Møller, Joseph P. Ornato, Erik Sandoe,
Andreas Stukerberg, Hugh Twissall-Peck, Richard Swanson, and William H. Tilson, Members

Circulation 84: 960-975, 1991

- デザイン: 人口ベースの前向きコホート
- 期間: 1998年5月1日より開始
- 対象地域: 大阪府(人口: 8,817,166人)
- 院外心停止症例の蘇生に関する記録を、ウツタイン様式に基づき収集するプロジェクト

方法

- デザイン:コホート研究
- 対象地域:大阪府高槻市(人口約35万人)
- 期間:2008年1月~12月
- 対象:
 - ①大阪府高槻市で発生した、18歳以上の内因性
院外心停止患者(除外基準: 救急隊到着後の心停止患者)
 - ②上記症例の救助に主体的に関わった者
- 方法:救急隊が心停止現場で救助者に対して、CPR講習会
の受講歴などインタビュー調査を実施
- 要因:救助者のCPR講習会受講歴の有無
- 評価項目:救助者による心肺蘇生実施／心停止患者の1カ
月後の生存

5

Bystanders' and patients' characteristics

18歳以上的心停止は273人。
救急隊による蘇生処置がなされた内因性心停止は170人。
そのうち質問紙に答えた人は120人。

	Bystanders' previous CPR training		<i>p</i> -value
	Trained (n = 60)	Non-trained (n = 60)	
<i>Bystanders' characteristics</i>			
Age, yr, ± SD	52.5 ± 16.1	61.1 ± 15.6	0.018
Male, n (%)	22 (36.7)	25 (41.7)	0.354
Medical staff, n (%)	18 (30.0)	3 (5.0)	<0.001
<i>Patients' characteristics</i>			
Age, yr, ± SD	80.3 ± 12.6	75.7 ± 11.4	0.042
Male, n (%)	32 (53.3)	30 (50.0)	0.428

6

Bystanders' resuscitation performance and Patients' outcomes

	Bystanders' previous CPR training		<i>p</i> -value
	Trained (n = 60)	Non-trained (n = 60)	
Bystander CPR, n (%)	45 (75.0)	26 (43.3)	0.001
Neurologically favorable one-month survival, n (%)	2 (3.3)	1 (1.7)	0.500

7

考察

- 心肺停止発生現場という困難な状況の中で、救助者に対してインタビューを実施して得られた貴重な研究である。
- 心肺蘇生講習会を受講した者は、CPRを行う割合が高く、心停止患者の発症1ヵ月後の生存も高い傾向がみられた。講習会の受講は救助活動を促し、患者の転帰改善にもつながる可能性が示唆された。

8

まとめ

- 心肺蘇生講習会を受講した者は、受講していなかった者と比較して心肺蘇生を行う割合が高かった。
- 発症1カ月後の生存は受講歴のある者が救助に関わった心停止例のほうが多い傾向を認めた。

データ収集にご協力いただいた高槻市救急隊の皆様、本研究にご協力いただいた高槻市民の皆様に心より感謝いたします。



高槻市消防本部 ドクターカー前にて

9

【研究2】 Association of Out-of-Hospital Cardiac Arrest with Prior Activity and Atmospheric Temperature

心停止発生前活動別、気温と
心停止発生との関係

10